

幻の伊那電車の歌について

小塩 立吉

1. 家では馴染んでいた幻の伊那電車の歌

父は、飯田中学三年の時に漢文教師福澤悦三郎先生が講堂のピアノの弾き語りで聞かせたという伊那電車の歌を知っている人が加齢と共に少なくなることを嘆いていた。私は子供の頃から何度も聞いていたので覚えてしまっていた。

父は、小塩禄郎が自伝『ご用伺い七十年』に歌詞を残しているほか、録音を残している。

息子の私の記憶が残る間に楽譜に残さないと永久に陽の目を見ないことになる。最近になり音楽ソフトを手に入れどうやら採譜することができた。

この中で父も疑問に思っていた点があり、それは1番の歌詞の最後が「いつしか過ぎて長姫城下」となっていることだった。

最近、この龍西を通す案があったことを示す資料が見付かり長年の疑問が溶けた。2014に自己ホームページの記載に新資料を加えて書き換える次第である。

2. 福沢先生ピアノ弾き語り時期、現路線決定時期

① 福沢先生の在任期間とピアノ弾き語り時期

福澤悦三郎(西藍)先生の在任期間内で、父の3年次の時は1911(明治44)年と考えられる。(卒業1913(大正2)年3月)

なお、福沢先生は、1913(大正2)年に上伊那農業学校の校歌を作詞しておられる。

② 飯田中学にはヤマハ洋琴製の製造番号10のピアノが置かれていた。

△ 以後、福沢先生の出身地、在任期間、龍西案との関係が分かれば追記したい。

3. 新資料による龍西案の存在

1番の歌詞通り伊那電を龍西に通すことが検討されたことを示す資料を

飯田歴史研究所「飯田、上飯田の歴史」下 2013 発行によれば、原資料を上伊那編纂会編「上伊那市誌資料9 飯田線 1957」として記されている。

① 飯田駅の駅の位置について伊那電鉄本社は、種々の案を検討してから飯田町羽根外(現飯田駅)に決定していた。

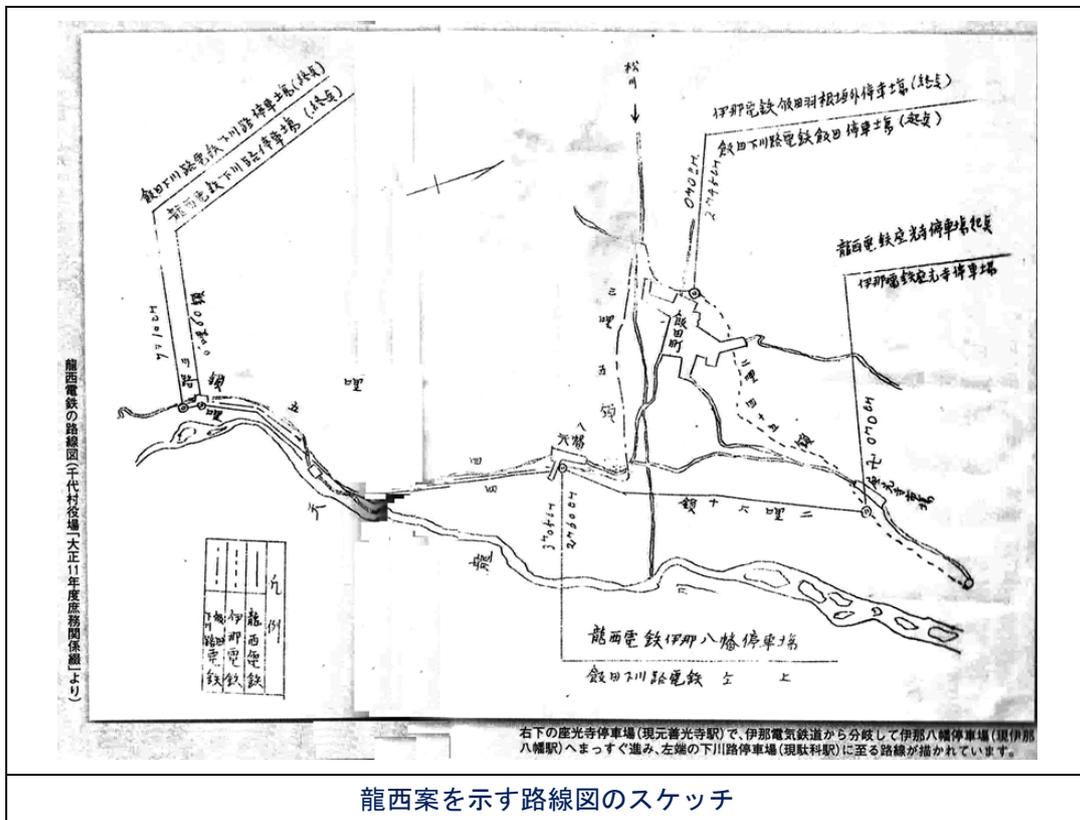
② と共に、飯田以遠に関し飯田町から下川路村までの姉妹会社飯田電気鉄道の計画があった。これは伊那電の役員でもあった上柳喜右衛門が作成したものであり、ほぼ現在の路線と一致する。

③ 一方、龍西電気鉄道は、発起人森本勝太郎(松尾村村長)らは、座光寺駅で伊那電を分岐し、飯田城下を通り、伊那八幡へ進み下川路(現駄科駅)に至る路線を考えていた。本資料の日付は既に飯田線以遠の正式決定間近の1922(大正11)となっている。

それより以前に龍西電気鉄道の計画を知っていたのであろう。その趣旨が歌になっている。

④ 福沢先生の歌詞は、沿線の景観を小刻みに早口に畳み掛けてくる。飯田中学校歌のように大部分音譜と歌詞が一对一に対応するようではなく、大変近代的な感じを持つ。

⑤ また、天竜峡までの延伸は未定であり、「飯田の果て」となっている。



この図は、現実の切石、鼎大Ω路線決定の僅か前である。これ以前に資料の発見が望まれる。

⑥ 父が書き残した歌詞を 一番、二番対比すると かなり趣が異なる。

一番の歌詞	二番の歌詞
<p>辰野の空より 飯田の果てに 雪降る朝も 雨降る夜半も</p> <p>機織るように 電車は通う 年寄りも若者も 鳥より速く旅をする 手荷物も小荷物も 矢玉のように飛んでくる <u>山越え川越え丘越えて</u> 瞬きする間に 大田切の橋も 日陰坂の丘も 大島山の滝も 牛牧の里も</p> <p>いつしか過ぎて 長姫城下</p>	<p>電車の窓に 吹く春風は <u>宮木の森の 桜に香り</u> 大出原の 麦青々と 長閑な空に 雲雀は唄う 松島の追分に 落下の雪の面白や 伊那町の河づたい 青田の嵐心よや <u>常円寺畔の月影に</u> あだし野の露に 美女が森の紅葉に 高津やの緑 (□□□□□□ □□□□□□) 赤石山の夕日 天竜峡の朝霧 園原山も 程遠からじ</p>

飯田以遠が未定であったことを踏まえて、1 番冒頭に辰野の空より飯田の果てにと記している。伊那町までの開通時期は 1912(明治 45)年であり、鳥瞰図路線案内によれば伊那上郷から飯田町中間付近まで登るように描かれている。

元伊那市立図書館長平賀研也氏から大変貴重な伊那電気鉄道が伊那町迄開業した当時のパンフレットのコピーを頂いた。

⑦ 現実の飯田までの開通が 1923(大正 12)年 8 月であり、2 番では北の方から記し、伊那ではやがて延伸するであろう赤石山の夕日 天竜峡の朝霧 園原山も ほど遠からじ。と結んでいる。

⑧ 飯田付近の路線が切石、鼎回りの大Ω案に決定し、現実に天竜峡まで開通した

のは 1927(昭和 2)年である。

⑧ 父の録音テープは飯田市立中央図書館にコピーを提供していたが、元館長加藤みゆき氏から CD に焼き直して逆に頂いた。これを聴くと父の口から作歌事情も明らかになった。

○ 父の録音は 83 歳の時 1979(昭和 54)年である。ご用伺い七十年の文章は 1975(昭和 50)年 12 月である。

○ 歌声を元に河合楽器製スコアメーカーで採譜を試みた。私の記憶と 1 番は概ね合っていたが、2 番についてはかなり異なっていたが、録音にできるだけ忠実に採譜を試行した。

幻の伊那電車の歌

福沢悦三郎(青藍) 作詞作曲

一番

た つ の の そ ら よ り い い だ の は て に

5
ゆ き ふ る あ さ も あ め ふ る よ わ も は た お る よ う に

8
で ん しゃ が か よ う と し よ り も わ か も の も

12
と り よ り は や く た び を す る て に も つ も こ に も つ も

16
や だ ま の よ う に と ん で く る や ま こ え か わ こ え

19
お か こ え て ま た た き す る ま に お お た ぎ り の は し も

23
ひ か げ ざ か の お か も お お し ま さ ん の た き も う し ま き の さ と も

26
い つ し か す ぎ て お さ ひ め じ ょ う か

rit.

二番

でんしゃのまどーに ふくはるかぜは
5 みやきのもりの さくらにかおり おーいではらの
8 むぎあ おあ おと のどかなそらに ひばりはう たう
12 まつしまの おいわけに らっかのまいのおもしろや
16 いなまちの かわづたい あおたのあらしこちよや
20 *rit.* Tempo I じょうえんじはんの つきかげに あだしののつ に
23 びじょが もりのあさぎり たか つやのみ り あかいしやまのゆう に
26 *rit.* てんりゆぎょうのあさ り そのはらやまも ほどうから
30
ず

4、HPに音声を載せる計画

かねてより構想していたが、次の音声を掲載する予定である。

- 小塩禄郎が歌った音声 1、2番
- 採譜した楽譜の発生音声 1、2番